

※事前把握項目

避難所名 (施設名)		市町村名	
避難者数	人 (月 日現在)	避難所 責任者氏名	
評価年月日	西暦 20 年 月 日	連絡先 (電話等)	
評価時在所 避難者数	人 (AM/PM 時現在)	情報収集法	※ 実施した方法をすべてチェック <input checked="" type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> 責任者等からの聞き取り (役職・氏名：) <input type="checkbox"/> 避難者からの聞き取り (人程度) <input type="checkbox"/> 現場の観察 <input type="checkbox"/> 支援活動等を通じて把握 <input type="checkbox"/> その他 ()
評価者氏名 職種	氏名： 所属： 職種：1 保健師 2 助産師 3 自治体職員 4 医師 5 その他 ()		

※事前把握項目

項目	簡易評価	確認項目 (※確認できれば数値や具体的内容を記載)	特記事項
(1) 特に 配慮が必要 な対象者		a 乳幼児 (就学前) (約 人 or%), 不明 b 妊婦 (約 人 or%), 不明 c 高齢者 (75 歳以上) (約 人 or%), 不明 d 障がい児者・要介護者 (約 人 or%), 不明 e 有病者 (約 人 or%), 不明 f 外国人 (約 人 or%), 不明	
(2) 産科ニーズ	(◎・○・△・×・ー)	a 37 週以降の満期妊婦 (人), 不明 (具体的に：) b ハイリスク妊婦 (人), 不明 (具体的に：)	
(3) 母子必需品 等の確保	(◎・○・△・×・ー)	a-1 オムツ (新生児用) 1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 a-2 オムツ (乳幼児用) 1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 b おしりふき 1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 c 湯沸し 1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 d 洗浄・滅菌器具 1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 e ミルク 1 充足, 2 不足 (約 人分), 3 不明 f その他 () 1 充足, 2 不足 (約 人分),	
(4) 環境整備	(◎・○・△・×・ー)	a 授乳室 1 ある, 2 ない, 3 不明 b 保温、保湿 1 している, 2 ほとんどしてない, 3 不明 c 乳幼児の介助サポート 1 している, 2 ほとんどしてない, 3 不明 d 安静・休養を取れる部屋 1 ある, 2 ない, 3 不明	
(5) 体調の 訴え・異常	(◎・○・△・×・ー)	a 疾患がある者 1 いない様子, 2 いる (約 人) b 健康障害がある者 1 いない様子, 2 いる (約 人) (つわり、腰痛等による) c 他の問題*がある者 1 いない様子, 2 いる (約 人) * (具体的に：)	
(6) 母子保健医療 の確保	(◎・○・△・×・ー)	a 近隣の受診可能な産科診 療所・仮設診療所 1 あり, 2 ない, 3 不明 b 巡回産科チームの訪問 1 あり(定期的), 2 あり(不定期), 3 ない, 4 不明	
その他の問題	具体的に：		

※ 書ききれない情報や関連情報は、特記事項欄に記入してください。
 ※ 簡易評価の定義：◎良好・問題なし、○ほぼ良好・ほぼ問題なし、△やや問題あり、×大いに問題あり、ー：不明

災害時避難所等母子保健アセスメント票の活用について

本アセスメント票は、避難生活者の健康維持に影響する母子保健問題を概括的に把握し、現地災害対策本部(災害公衆衛生活動の歯科部門)に伝達して支援調整に役立てる全国標準版として「災害時公衆衛生歯科機能を考える会」で提案された情報収集ツールを模範に、厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「妊産婦・乳幼児を中心とした災害時要援護者の福祉避難所運営を含めた地域連携防災システム開発に関する研究(研究代表者:国立保健医療科学院 吉田穂波)」研究班で作成したものです。

産科や母子保健の専門職だけでなく、避難所の運営スタッフや支援者が用いて、本票の確認項目をふまえて評価することで、見逃しがちな母子保健の課題が浮かび上がるようになっています。

<<本票を用いた情報収集(アセスメント)にあたって注意すべき点>>

● 事前の心構え ●

- 1 対象となる避難所等の状況を十分に配慮して手短かに情報収集を実施すること。とくに、避難者同士が助けあって運営している避難所の特性を踏まえて、余分な負担をかけないように臨むこと。
- 2 情報収集の実施時期は、基本的に、発災 72 時間後で、避難生活の長期化が見込まれる場合とする。
- 3 避難所外の者が用いる場合は、できる限り現地対策本部等からの指示調整に従い、避難所の事前情報を得た上で、本票を用いた情報収集を行うこと。

● 実施の手順 ●

- 1 避難所の責任者(もしくは健康管理担当者等)に身分証などで自己紹介した上で、その目的(支援活動に先んずる必要性の把握)を告げ、責任者の同意・協力を得て実施すること。
- 2 情報収集は、各避難所等の状況に見合った方法(聞き取り・観察など)を選び、避難者及び運営スタッフに負担を与えないよう、短時間で概括的に把握して記載すること。
- 3 最後に、責任者(もしくは健康管理担当者等)に、情報収集の終了と結果概要を簡略に報告(可能なら本票の写しを手渡ししながら再確認)し、この結果を必要な支援につなげる旨と継続的に情報収集に来ることの理解を得ておく(同時に、避難所向けの母子保健管理用リーフ等も手渡してもよい)。
- 4 本票の不明な情報は「記載もれ」と区別するため、必ず「不明」等と明記して記載し、現地対策本部の母子保健部門(保健福祉事務所もしくは産婦人科医会)に届けること。

(注)本アセスメント票の「避難所等」とは、被災下で宿泊・食事等の生活をする収容場所全般を想定しています。したがって、高齢者・障害者・病弱者等の通常の生活にも困難な要援護者等のための福祉避難所、更に広義には被災下での福祉施設から自宅等も含んだ収容施設が該当します。